

米経済はテクニカルリセッション入りの可能性



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 米経済はテクニカルリセッション入りか

米経済がテクニカルリセッション入りする可能性が高まってきました。一般的にテクニカルリセッションとは2四半期連続で実質GDP（国内総生産）成長率がマイナスになることを指します。

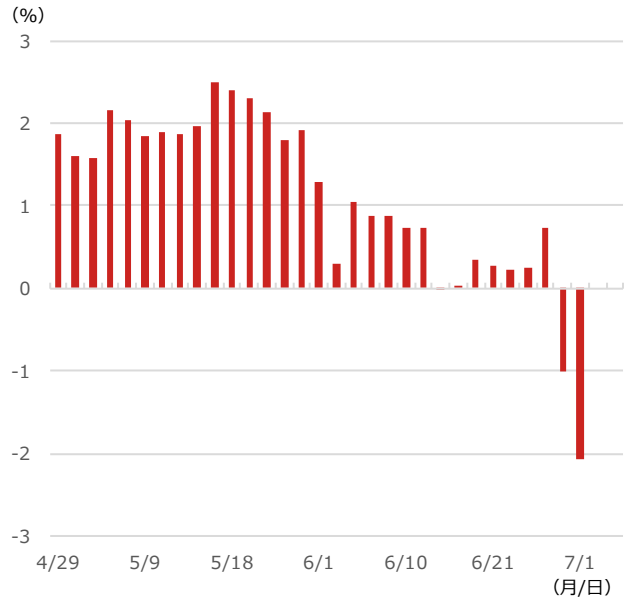
米アトランタ連銀が月次統計を基に米実質GDP成長率を算出するGDPナウは前期比年率▲2.1%（7月1日時点、右上図）となり、1-3月期の同▲1.6%に続き、4-6月期も米経済がマイナス成長になる可能性を示唆する内容となりました。7月1日に発表された6月の米ISM（サプライマネジメント協会）製造業景況感指数が低調な内容となったことに加え、同日発表の5月の米建設支出も市場予想に反して減少となったことが、GDP予測の下方修正につながったと考えられます（同図）。

ポイント② 金融市場の緊張が高まりつつある

従来、米国が景気後退に陥る前後ではFRB（米連邦準備制度理事会）が利下げを始めとした金融緩和策で景気を刺激するとの期待が市場全体を支えてきました。しかしながら今回は、米国のインフレが高水準で推移しているため、景気後退入りが迫っていてもFRBが金融緩和に動けないことが市場の不安心理を増幅しているといえます。

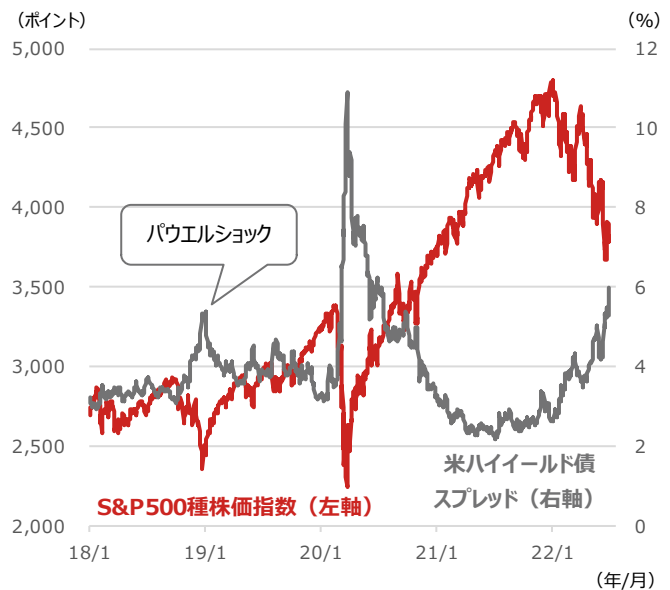
米金融市場の緊張状態を示すとされる米ハイイールド債スプレッドは、FRBによる過度な金融引き締めで市場が混乱した2018年末のパウエルショックを上回る水準となっており、それに伴いS&P500種株価指数も下落基調が続いています（右下図）。FRBによる積極的な利上げやバイデン政権が検討するインフレ抑制策により、米インフレが早期に沈静化に向かうかが米国の金融市場を見る上で焦点といえそうです。

米アトランタ連銀算出GDPナウ



期間：2022年4月29日～2022年7月1日、日次
・グラフは米国の2022年4-6月期実質GDP成長率の推計値
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500種株価指数と米ハイイールド債スプレッド



期間：2018年1月2日～2022年7月1日、日次
・米ハイイールド債スプレッドは米10年国債利回りとの差、CSI BARC Indexを使用
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。